

かまくらささえあい福祉プラン 大船地区懇談会 議事録

日時 平成30年2月21日(水) 14時00分～15時30分  
会場 大船駅周辺整備事務所  
出席者 大船地区 39名  
地域包括支援センター きしろ 織田管理者 ふれあいの泉 松井管理者 土屋 SW  
推進等委員 川上委員長 谷本副委員長 国分委員 西崎委員  
事務局 市福祉総務課 小田氏 鎌倉市社協 相川常務 内藤局長 山本主幹  
堀井主任主事 佐々木 SC 今井 SC

大船ボランティアセンター 北村センター長より挨拶  
事務局より懇談会の趣旨説明

議事概要

議題

- (1) 地域共生社会づくりに向けて  
資料に基づき説明 (川上先生)

議題

- (2) 意見交換

【発言概要】

(少子高齢化、地域づくりについて)

- ・大船は戸建て住宅も多いので、二世帯住宅が増えると、子どもや子育て世代が定住する余地があるのではないかと。反面、待機児童の問題があるため、保育園を増設する等の対応が必要。
- ・少子高齢化・人口減というが、大船は新築マンションも増えてきており、子育て世代を中心とした新しい住民も増えてきている。「鎌倉」と一括りで考えてもらいたくない。
- ・ささえあい福祉プランを作るときも地域差を考えて検討してもらいたい。
- ・老人クラブの単位会が高齢化により減少していたが、徐々に復活し始めた会も出てきており、世代が変わることで活性化しているところもある。
- ・子育て世代は子どもが小さいうちは地域の行事や学校行事に参加するが、大きくなるにつれ地域との関わりが減っていく。
- ・防災に力を入れ防災マニュアルを策定しているが、地域全体にどう広めていくか。AEDや防犯カメラも設置しているが、地域の中での理解に温度差がある。
- ・独居高齢者が増加し災害時どうするかという課題はあるが、雨戸の開閉や食事のこと等もっと身近なことで困っている方も多い。ちょっとしたお手伝いがあれば、まだまだ地域で生活できる人もいる。
- ・元気な高齢者もいるが、プライドがあり支援を拒否する方もいる。支援を拒否された場合どのようにすれば良いか。孤独死等も心配になる。
- ・今泉台は高齢化が進み、独居高齢者も多いが、NPOが入り居場所づくりに取り組んでいる。

・高齢者世帯が増えてはいるが、個人情報やプライバシーの関係で、隣近所以外の把握が難しくなっている。

・70代の方で孤独死が怖く、友人を作りたいと話している方がいた。元気な高齢者が集える場が必要だと思う。

・閉じこもり高齢者は自宅により近いところに集いの場がないと参加できないと思う。

#### **(担い手について)**

・自治会役員や子ども会役員のなり手がおらず、役員にも高齢化が進んでいる。

・自治会、町内会に入りたいと思えるような周知やアピール方法を考える必要がある。

・町内会に40代の役員が入っている地域があり、若い人たちの視点で企画・運営している地区もある。

ハロウィンのお祭りを行った際は、50～60人程度の子どもや子育て世代の人たちが参加していた。

#### **(地域の活動について)**

・大船ボラセンはボランティア数が減少してきており、今後の活動の継続性に課題がある。

・地域の担い手に過度な負担がかからないよう、住民、行政、市社協、包括の役割分担を明確にした方が良い。

・子育て世代とも関わりたいが、「何かやらされるのではないか」という思いがあるようで、遠慮する方が多い。

・若い世代との世代間交流は少しずつお祭り等の機会を利用して進めていくしかないのではないか。

#### **(民生委員の活動について)**

・民生委員をやっていると、高齢者（独居、老々介護世帯）だけでなく、子どもや障害者等、なんでも頼られてしまう。できる限りで買い物同行や緊急のときは救急車を呼んだりしているが限界もある。

・地域の困り事で手に余るものは地域包括支援センターにその都度相談し、個別の課題の地域ケア会議等も行っている。非常に心強い。

・災害時は民生委員も被災者になる。要援護者支援の名簿もあるが、登録しているからといってすぐに助けが来ると思われるのも困る。

・地域包括支援センターは民生委員には周知されているが、一般の住民への周知は不足しているのではないか。

#### **(市役所・市社協への要望)**

・大船にはレイウエルが無くなり、行政センターの会議室も予約が多く利用できない。市民が活動する場・集える場を作ってもらいたい。市役所を移転する際はコミュニティスペースを設けてもらいたい。

・モデル地区でゴミの戸別収集の実証実験を行ったが、実験が終わって移行はゴミ出しが大変な世帯を隣近所が支えるという活動が激減してしまった。実証実験を行うだけでなく、その後の見通しも含めて検討すべきではなかったか。

・共生社会、地域まるごとというのであれば、まずは市役所の職員自身が意識改革をすべきではないのか。

・現行のささえあい福祉プランは項目が多く読みにくい。もっと項目を絞り確実に取り組める内容にすべきではないか。

・元気な高齢者を増やすために、予防（医療・介護）にもっと税金を使うべきではないか。

・民生委員は日中、夜間を問わずいつでも連絡が入り疲弊している方もいる。民生委員のサポートをしっかりやってもらいたい。

・他市では 65 歳以上の方に安否確認を兼ねてヤクルトを配る取り組みがある。鎌倉でも市を挙げて取り組んでみてはどうか。

・役職がある人だけでなく、もっと広く地域住民の意見を聞く場を設けても良いのではないかな。

・高齢、障害、児童といった分野にとらわれず総合相談ができる窓口を作してほしい。

**(川上先生からのコメント)**

・自治会町内会に若い世代が入ってくれないという話があったが、他地区では 40 代が多く加入しているところもある。そのような地区は 60 代、70 代とは違う視点で企画・運営されている。担い手不足はあるが思い切った世代交代もいいのではないかな。

・行政、市社協は足らず部分を補う役目を地域に押し付けてきたのではないかな。専門職がもっと役割分担を明確にして取り組む必要がある。

**(谷本委員からのコメント)**

・梅澤会長とも話したのですが、大船地区は人口からも規模が大きい。駅前のエリアと今泉台を一緒にしては語れない。もっと地域を分割して 10 地区くらいで懇談会を持つことができないか、検討してもいいかもしれない。

**(西崎委員からのコメント)**

・社会福祉施設が一堂に会する施設部会の中では、施設の枠を超えて社会貢献を検討している。地域づくりという視点で連携を取りながら取組みたい。

**(国分委員からのコメント)**

・今回の懇談会を通じて、鎌倉市は地域によって違いがあると感じた。計画をどうまとめられるか。もっと小地域でヒアリングする必要があるかもしれない。

以上